

スマート養殖センサMagicCounterPlusを用いて、尾数を管理し、安定した養殖経営のためのDX化を目指す

採択事業者名

株式会社AquaFusion

コンソーシアム構成員

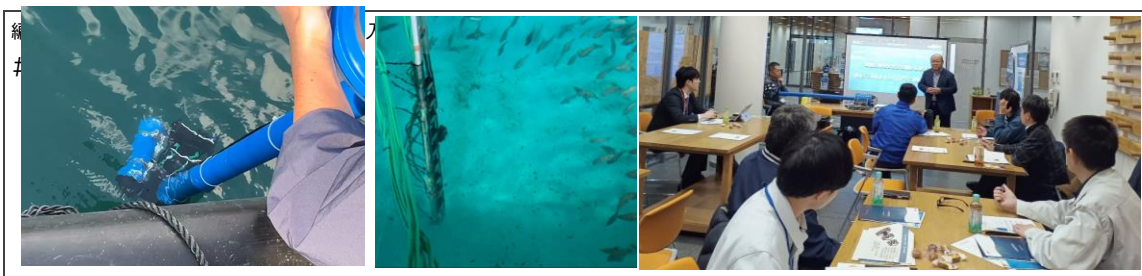
愛媛県農林水産研究所水産研究センター | 株式会社宇和島プロジェクト | ヤマニ中田水産 |

勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	4回	実施回数の累計	6回
参加人数のユニーク累計	11名	参加人数のユニーク累計	32名

代表的な実施事例

狙いとゴール	本事業の進捗状況や成果を共有し、自動尾数カウントシステムMagicCounterPlusへの興味関心を高め、横展開することにより、養殖業のDX化を加速させる。
実施の成果	外部勉強会では、愛南町・宇和島の水産業者を中心に計21名が参加。特に3社と次年度の実装に向けて実証を行うことで協議開始中。
実施アジェンダ 協議内容	県の担当者から事業説明、水産研究センターの担当者から本事業への期待を説明いただき、株式会社AquaFusionから成果報告や意見交換を行った。導入に向けた課題を協議した。
参加者の一例	・宇和島、愛南の養殖事業者 ・県の水産課、県漁協 ・県内の銀行
次年度以降の 想定アクション	外部向け勉強会は年1回以上実施 ①尾数カウント精度5%以内、②魚体重計測システムのオプション追加



データ活用・協議の具体例

重要
指標
例

実装結果に基づいて尾数を推定
⇒養殖事業者様のフィードバックに基づいて尾数カウントの精度評価
⇒推定された尾数カウントは養殖事業者様にデータとしてお渡しをして給餌の調整に利用

実装前

実装後

データ
取得

・尾数カウントの製品はなかった
・タイなど一部の魚種では、ワクチン接種時に尾数カウント(1日以上)の労力を行っていたが、マグロ等は手に触れることができないため、確認不可

・計測時間15分以内で尾数カウントが可能
・詳細解析によって魚の行動・分布なども計測可

データ
活用

・製品がないため、利活用なし

・自動で尾数カウント
・継続的に実施することで尾数の変化を可視化

実行

・給餌の状況や斃死の数によって大まかな尾数をカウント
※給餌の状況は水温等環境によって依存するため、大きな誤差を生み出す要因

・具体的なデータ計測に基づいた尾数データを推定し、客観的な指標として提示可能

業務
反映

・尾数カウントの製品がないため、生産仲間との議論材料がない

・上記で可視化されたデータに基づき、客観的指標に基づく意見交換が可能

代表的な実施事例

・海面養殖においては四角形生簀と円形生簀があり、加えて陸上養殖がある。

・それぞれの形状に対応した実証先に基づいて、尾数カウントを実施し、精度を評価

・実証に基づいたシステムの改良を実施

新規実装	ヤマニ中田水産	四角形生簀の実証
新規実装	岡崎水産	四角形生簀の実証
新規実装	松浦水産	円形生簀の実証
新規実装	宇和島プロジェクト	養殖事業者から意見集約
新規実装	県水産研究センター	陸上養殖施設・四角形生簀での実証